



外部戦略 / 研究・国際担当理事

(2008.10.1 - 2009.10.31) (2009.11.1 - 2010.9.30)

吉川 潔

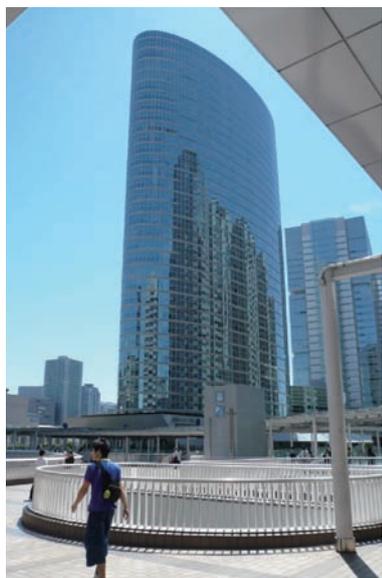
平成20年10月1日から新設の外部戦略担当、平成21年11月1日から研究・国際担当と、2年間で3つの分野を担当させていただくことになりましたが、多くの教職員の皆様方の協力を得て様々な課題に取り組むことができました。

□外部戦略 [2008.10.1 ~ 2009.10.31]

従来から早急な着手が必要とされてきた渉外、大学基金、人材活用、国際展開などの企画・立案について、事務方として2名の外部戦略室が新設され、企画部に属する同窓会担当の社会連携推進課や同じく新設の総長室とも連携をと

りながら活動を始めました。京都大学が将来にわたり健全でかつ活力ある大学運営を行うためには、早急に長期的な視点からの新たな自律的資金である大学基金の確立がますます重要となります。そこで、卒業生を核に“大学支援風土の醸成”に早急に取りかかるため、利便性の高い東京品川駅傍の品川インターシティ A棟27階に平成21年9月京都大学東京オフィス（195坪）を開設することになりました。

一方、京都大学がこれまで培ってきた知的資産の全国発信、さらには国内同窓会活性化のため、9月16日に岐阜市、9月29日に福岡市で地



品川インターシティ



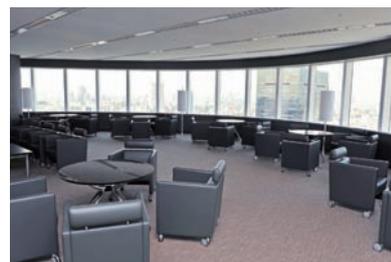
遠隔による会議風景



特別応接室



開所式の歓談様子



東京オフィスのラウンジ



講演会ポスター



京都大学交響楽団による演奏



ホームカミングデイミキサー（交流会）

域講演会、終了後、総長を交えた同窓会を開き、京都大学の現状を直接伝えました。

平成21年度の京都大学同窓会主催ホームカミングデイ（HCD）を11月14日に開催しました。HCDでは、本学教員による記念講演会、京都大学交響楽団による記念演奏会、女性学生対象シンポジウム、OB/OG等と学生との交流会、総長との昼食会、京都散策プラン、清風荘見学など、新企画も加味し、また、タイ、インドネシアから元留学生各4名を招待し、中国の元留学生にも参加いただきました。

また、同窓生が京都大学を訪問の際集える場所について、京大会館が文書館に転換する機会を利用して楽友会館の改修を検討し、平成22年10月1日に建設当時の風情を残したバリアフリーやエレベータもある楽友会館が開所される運びとなりました。

若手教員ポストの増設に関連して、海外における京都大学分校設立の可能性を調査・検討、今後、より具体的な事業計画を立て、その遂行上障害となる規定について改正を含む意見書を作成することが必要です。

ベテラン教員の活用について、シニアアカデミーの設立や、定年退職教員による教養授業・実験などの補助、競争的資金獲得による研究推進、若手研究者の支援・指導、などを検討し、このうち、OB/OGによる若手研究者応募文の添削は実現の運びとなりました。

□研究 [2009.11.1～2010.9.30]

タスクフォースに新しく2名のPOが参画、これまでの若手研究者、女性研究者、さらにはシニア・コア研究者を対象とした支援など研究推進戦略活動を強化しました。特に、若手教員の



伯楽会議

科学研究費補助金などにおける採択率を上げるため、平成23年度科学研究費補助金若手研究(A)、(B)応募予定者を対象にOB/OG等による公募申請書類の推敲をお願いすることになり、今年度は34名のOB/OG等により、9月から60名の若手研究者の公募申請書類の添削を依頼しました。また、大きなグラントを獲得したグループの初動体制構築支援を行うため平成22年4月に2名からなる研究推進支援室を立ち上げました。また競争的資金のうち平成22年度グローバルCOEプログラムの間接経費が全廃されたため、京都大学の13採択拠点が支障なく続行できるよう様々な相談・対処を行いました。世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)では、平成22年2月にsite visit、8月にfollow up委員会があり、評価としてさらに検討すべき項目はあるものの、全体的に、昨年より良好な評価をいただきました。一方、国際的リーダーとなりうる若手を育成するため、京都大学次世代研究者育成支援事業「白眉プロジェクト」を立ち上げ、優秀な若手研究者18名を内定し、順次、年俸制特定教員(准教授、助教)として採用し、5年間、給与とともに研究費も支給し、報告義務はあるが、評価は一切せず、自由に研究に没頭



「たちばな賞」受賞者

できる環境と身分を与える京都大学独自の制度を発足させました。

女性研究者支援の一環として、「たちばな賞」の2回目の公募を行い、研究部門では経営管理研究部・寄附講座准教授アスリ・チョルパンさん、学生部門では理学研究科博士後期課程渡邊皓子さんが3月3日受賞されました。

研究組織関係では、平成22年4月1日に京都大学の第14番目の研究所として「iPS細胞研究所：CiRA」が発足し、5月8日の開所式には川端達夫文部科学大臣のご臨席を得てお披露目が行われました。また、研究費の不正使用防止では、e-learningを利用して競争的資金等の不正使用防止の意識向上に努めました。

□国際 [2009.11.1 ~ 2010.9.30]

国際交流関係では、表敬訪問を含め多くの外国大学、あるいは団体との交流を深めました。とくに、最近の特徴として、従来の学生交流から、研究者交流、さらには産業界を巻き込んだ産(官)学連携のパッケージ型連携が増えてきたこと、また、中近東やアフリカ、それに加えて、ヨーロッパの大学などからの接触も多くなりました。



Kiyoshi Yoshikawa



山中伸弥所長と白眉研究者との懇談会



国際交流会館みささぎ分館

G30に関連して、平成22年9月にはベトナム・ハノイに共同連絡事務所VKCO (Vietnam National University, Hanoi - Kyoto University Collaboration Office) を開設しました。また、JICAとエジプト政府によるE-JUST (Egypt-Japan University of Science & Technology;アレクサンドリア) の開所式に出席しました。京都大学は工学2分野 (化学と材料工学) でカリキュラムを提供します。また、G30に関連して、従来の3留学生寮に加えて、平成22年10月から新たに、山科に「国際交流会館みささぎ分館」を開設することになりました。



iPS細胞研究所竣工披露式テープカット

iPS細胞研究所

